## サイト上の漢字に無料でルビ振り

# 「支援技術」へ第一歩

学習障害で漢字の読めない人や外国人向けに、電子メールやサイト上の漢字に自動的にルビを振るサービスを、IT（情報技術）を活用した障害者支援に取り組む団体「アダプティブテクノロジー」が無料で始めた。同団体代表で、システムを開発した鳥原信一さんは、情報の提示の仕方を変換させるこの技術を発展して、「その人の障害の種類や程度、属性や好み、TPO（時、場所、状況）に合わせて情報を提供できるようにしたい」と夢を語る。

利用者は一度ユーザー登録をすれば、後は「アダプティブテクノロジー」の運用するサーバーを経由してホームページを閲覧したり、メールを受け取ったりするだけ。使われているすべての漢字にルビが振って表示されるが、同じ機能の市販パソコン用ソフトと違って無料で、携帯電話からも利用できるなどの特長がある。

鳥原さん自身、網膜色素変性症という病気の視覚障害者。画面のデータを音声で読み上げるパソコンソフトを日常的に活用し、慶応大大学院で研究活動に取り組んでいる。ITの恩恵を受ける一人だが、現在の障害者支援技術には不自由さを感じるという。

例えば、音声読み上げソフトでパソコン画面の意味をつかもうとすると、文章を最初から最後まで聞いていなければならない。じれったいが、現状では障害者が、支援技術の仕様に合わせる形で利用せざるを得ない。

鳥原さんは「パソコンの側が障害者の個別の状況を察知し、文字や音声、動画、静止画などを組み合わせて、必要な情報をその人の欲しがる形で自動的に提供する」ようなシステムを理想として思い描く。

「漢字が苦手」という人に合わせてルビを振り、読みやすくするサービスはこの構想の具体化の第一歩だ。今後は平仮名のルビの代わりに、英語や中国語など外国語の単語を表示したり、その単語に関連した画像や音声を付けたりするなど、利用できる人の範囲を拡大していくという。

「アダプティブテクノロジー」で事務局を担当する、バリアフリー型ホームページ制作会社「アイ・クリエイツ」（東京都町田市）の羽川和男代表は、「こうした支援技術が実現すれば誰にとっても便利になると思う」と意義を語る。